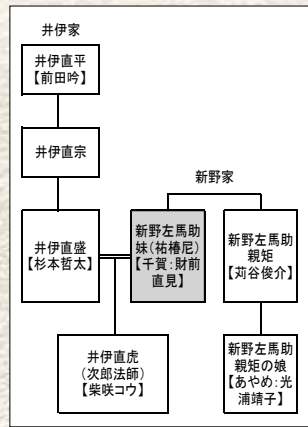




▲松岳院跡



▲直虎と祐椿尼の
戒名が刻まれた位牌



▲祐椿尼を中心とした関連図

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

History 新野左馬助親矩

No. 14 直虎の母 祐椿尼

キラリを再発見

特別編

井伊家と新野家は、井伊家当主直盛と新野左馬助公の妹である祐椿尼の結婚により、絆が大変強いものになった。大河ドラマでは、財前直見さんがおとわ(直虎)の母親「千賀」役を演じている。祐椿尼は、直盛が桶狭間で戦死後、龍潭寺境内に庵(松岳院)を結び、出家して夫の冥福を祈る生活を送った。

祐椿尼の果たした役割は、左馬助に劣らず大きなものだったと考えられる。一つ目は、永禄5年(1562年)直親の死後、虎松(後の井伊直政)を連れ兄の左馬助にかくまってもらい、虎松を殺害の危機から救った。そして、次郎法師を直親の後継者として井伊家の惣領としたこと。二つ目は、天正3年(1575年)、直政の家康への出仕に成功したことである。このとき、直虎とともに直政に小袖を与えたと伝えられている。

祐椿尼は天正6年(1578年)に松岳院で没し、法名は松岳院殿寿窓祐椿大姉。龍潭寺に安置されている位牌には、直虎とともに祐椿尼の戒名が刻まれている。

照会 社会教育課 ☎0548③1129

講演では、がんのメカニズムを解説後、福島事故で一般住民に起こり得る健康被害は発がんのリスク上昇しかないことや避難生活での生活習慣が発がんリスクを上昇させること、甲状腺がんの実態など、福島事故がもたらした放射線の影響だけでなく普段の生活習慣での発がんリスクについても話をしてくれました。

福島事故では、ほとんどの住民が3ミリシーベルト以下の被ばくであり、100ミリシーベルト以下では発がんリ

放射線の線量 (ミリシーベルト)	がんの 相対リスク	生活習慣因子
1000~2000	1.8	
	1.6	喫煙者
	1.6	大量飲酒(毎日3合以上)
500~1000	1.4	大量飲酒(毎日2合以上)
	1.22	肥満(BMI≥30)
200~500	1.19	
	1.15~1.19	運動不足
100~200	1.08	
	1.06	野菜不足

▲放射線や生活習慣によるがんのリスク
(出典：国立がん研究センターホームページ)

『放射線とがん』を演題に原子力講演会が1月25日、菊川文化会館アエルで開催されました。福島第一原子力発電所事故による放射線が私たちの健康にどのように影響するのか、放射線とがんの因果関係について、東京大学医学部附属病院放射線科准教授の中川恵一氏が講演しました。

スクを検出するのが難しいようです。また、喫煙は放射線を2000ミリシーベルト被ばくするのと同程度であり、生活習慣が日本人のがんの発生を増やしているそうです。私たちは、放射線が及ぼす影響について、常に正しい知識を持って行動することが大切だといえます。

Atomic

暮らしと原子力

原子力講演会『放射線とがん』
放射線医が見た福島の現状